

知的障害 養護学校 国際交流派遣 プログラム



平成 18 年 3 月 30 日～4 月 5 日
ハワイ島にて



特定非営利活動法人
知的障害者国際交流機構

第1回知的障害養護学校国際交流派遣プログラム団員

団長 学校法人 旭出学園

旭出養護学校校長

大見川正治

団員 札幌養護学校もなみ学園分校高等部

遠藤美里

保護者

遠藤晴美

旭出養護学校高等部専攻科

楠美将

保護者

楠美淑美

金沢大学教育学部障害児教育教員養成課程

宗本知緑

金沢大学大学院教育学研究科障害児教育専攻

高嶋紗帆

添乗員 近畿日本ツーリスト株式会社

桜井正彦

養護学校国際交流派遣プログラム行程表

日次	月 日	発着地	時間	利用機関	摘要	食事
1	平成18年 3月30日 (木)	成田発 ホノルル着 ホノルル発 ヒロ着	夜 午前	航空機 タクシー 航空機 専用車	空路、日付変更線を越え、常夏の島 ハワイの表玄関ホノルルへ ----- 日付変更線通過 ----- -到着後入国手続、通関手続後。 ホノルルにてハワイ州レセプション 宿泊施設へ (ハワイ島ヒロ泊)	(機)
2	3月31日 (金)	ヒロ滞在	午前 午後	専用車	午前は ARC 訪問 チャレンジッドは ARC にて Daycare 活動。希望により保護者 はヒロ市内見学 キラウエア火山国立公園見学 (ハワイ島ヒロ泊)	
3	4月01日 (土)	ヒロ滞在	午前 午後	専用車	終日自由行動 カポホ別荘地内のシャンペンコー ブにて遊泳 (ハワイ島ヒロ泊)	
4	4月02日 (日)	ヒロ発 コナ着		専用車	終日自由行動 オプションツアー (コナ地区のハプナビーチにての 遊泳とコナ観光地巡り) (ハワイ島ヒロ泊)	
5	4月03日 (月)	ヒロ滞在	午前 午後	専用車	ヒロ市庁舎へ ヒロ市会議長へのご挨拶 ヒロ高校訪問 (合同授業) <9:30~11:00> パホア高校訪問 (合同授業) <13:30~15:00> プナカマリ作業所訪問と交流会 <15:30~18:30> (ハワイ島ヒロ泊)	

6	4月04日 (火)	ヒロ発 ホノルル着 ホノルル発	午前 午前 午前	専用車 航空機 航空機	空港へ (機内泊)	(機)
7	4月05日 (水)	成田着	午後			

養護国際交流派遣プログラム・ツアーレポート

大見川 正治

3月30日 ハワイ州政府訪問

ひとりひとり、Mr. Jerry Chang より Certificate をいただき、庁内を案内係りの方に見せていただく。

3月31日 The Arc of Hilo 訪問、キラウエア火山観光。大変好意的で三つの活動を用意して歓迎してくれた。

その一 フランダンスの講習

その二 bean・bag の製作

その三 Hawaiian の数の数え方、日本の数え方の紹介

市内で食事をして午後キラウエア火山国立公園の観光に行く予定であったが施設で昼食を用意してくださりとご馳走になった。

4月1日 自由行動 宿泊施設交替

4月2日 滝の見学、動物園の見学 当初の予定のコナ地区の移動は変更する。

4月3日 ヒロ市庁舎訪問

ヒロ高校訪問

パホア高校訪問

プナカマリ作業所訪問

アメリカは日本の様に分離教育が行われていないので普通高校の中に特殊学級があり美術の授業を用意して待っていてくれた、ボランティアとしてハワイ大学で日本語を教えていた、リタイアした婦人、(お名前失念)普通高校生で日本語のわかる生徒が手伝ってくれた。ここでも昼食を用意してくださりとご馳走になった。生徒は軽度が多いので重度の生徒はいないのかと質問すると別の場所にいるとのこと、学生と私だけ特別に案内していただく、

ヒロ高校が、保護者が大変厳しいので写真は撮らないくださいと始めにいわれたのにたいして、パホア高校は公立でないせいか写真は構わないといわれ学校差を感じた。

プナカマリ作業所ではランの花を使ってレイを作る仕事をした。作業の後利用者全員で会食をして別れた。

4月4日 空港へ移動

4月5日 帰国

娘と初めての海外旅行

遠藤 春美

今回、娘と一緒にハワイへ海外旅行できたことは、春休みを有効に過ごすことができ本当に貴重な体験でした。

一番の心配は長時間飛行機に乗ってられるだろうか？という不安でした。重い知的障害の娘と海外旅行等できるだろうか？どんな旅行なのだろうか？等、多々心配はありました。

でも今回は知的障害者のためのプログラムツアーであり、皆さん理解してくださる人がいるということで是非この機会に体験させたいと思いました。

一番心配した、成田空港からホノルル空港までの機内の中では、何とか時間を過ごすことができました。機内では飲み物やおいしい機内食ができましたので、娘は食べるのに気がまぎれ時間をかけることができました。トイレにも何回か連れて行き、何度か寝かせるように努力しましたが、初めての飛行機でしたので結局一時間位しか眠れなかったようです。それでもおとなしくしてくれたので案じていたより以外に早くホノルルに到着したように感じました。

雪のある北海道から、飛行機から降りると、南国になっていることにとっても感動をいたしました。国際交流のプログラムは他のパックスツアーと違い独自のプログラムで、より現地の生活に密着して、スーパーでの買出しや、エンゼルハウスでの料理作り等、貴重な経験ができました。買い物や、レストラン等で英語圏での言葉のコミュニケーションに戸惑うことも一杯ありました。でも、必死に、何とか単語をつなげて聞いてみると、答えてくれて、即実践の英語の勉強になりました。海外で暮すと必死なので英語が身につくことが実感しました。

困ったことは食べ物-全てがビッグサイズで、説明文も全て英語なので手頃に見える食材がよく解らなくて買ったものは、せっかくハワイに行ったのに日本食ばかりでした。嵐の日、初めて入った大型スーパー店内で、3回も停電になったこともありました。

現地の人たちは、皆フレンドリーで気軽に挨拶してくれて、いつしか旅の後半には日本では味わえないハワイの風と温暖な気候、広大な大自然によって、心身共に癒されて心が軽くなっていくようで、娘の表情もイキイキしてきました。

ハワイでは障害者への支援の取り込みは素晴らしく、今回ハワイ州の下院議員のジェリー・チェング氏やヒロ市議会議長への挨拶に行きましたが、とても暖かく迎えてくださり、障害者があたりまえに働けるシステムが整っていることにうらやましく感じました。

高校は20歳まで教育が受けられ、学校の授業後先生が家庭や地域に来訪し、学校の間以外での個別指導の実践をして下さり、高校から作業所へのサポート体制の素晴らしさ等、同じ先進国として日本も見習わなくてはならないことが一杯あると思いました。

ヒロ高校とパホア高校での訪問と合同授業は同世代交流という娘にとっては貴重な経験でした。プナカムリ作業所のネルソンさん夫妻との交流は、初めてお会いしたのにとっても暖かく迎えてくださり有意義な時間を過ごすことができました。

今回の旅行で一番印象的だったのは、ARC訪問でのディケア活動参加でした。スタッフの人たちの熱意が感じられ、どんな障害の人でも、地域に密着した仕事に従事しているとのことでした。

手作りのレイで歓迎してくださり、ビーンズを入れたお手玉作り、ハワイのフラダンスの指導をうけて一緒に踊り、ハワイ語の講義を受けて、皆さんと一緒にランチを食べました。心からのご招待を受けて、親子ですっかりリラックスして楽しんでいました。

いつしか、娘もすっかりなじんでソファに座っていました。

私達との、出会いを本当に喜んでくださり笑顔が素晴らしく皆さん人生を楽しんでいるようでした。

私達親子の人との出会いが、国際交流の第一歩になって、これからの障害の人たちの力強い一歩になっていってほしいと思いました。そして、「たとえ重い障害を抱えている子供でも海外旅行ができる」という自信ができました。

今まで辛いことも多々ありましたが、世界には支えてくれて応援して下さる方々が大勢いらっしゃると思うと心強くなります。又そういう方との出会いが私達親子にとっては人生の貴重な財産になるように思いました。

札幌は四月に入っても雪が降りまだまだ肌寒い季節ですが、太陽の日差しを浴びてひと足先に夏を先取りしたようで娘はニコニコしています。

チャンスを与えてくださり、支えてくださった皆様に感謝いたします。

*****ありがとうございました*****

国際交流に参加して

楠美淑美

今回のツアーに母親の私と息子の将と2人で参加させていただきました。
全く英語が話せないなのでどんな旅行になるのか心配しましたが、特にトラブルもなく、無事にしかも将も私もイベントなどを楽しむことが出来たり、現地の関係者や生徒の皆さんと交流が出来て、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

さて、訪問先のARCでは、ハワイ語と日本語の数字などを題材にレクレーションがあり、人前に出るのが苦手な将が、なんと!!みんなの前に出て!!ボードに漢数字を書いて紹介する!!という出来事があり母親自身が驚きつつ息子の成長を垣間見る事が出来ました。

ヒロ高校では、子供たちが生徒さんと一緒にブレスレット作りや砂絵をして楽しんだり、みんなで高校のランチを食べたりしました。また、生徒さんに一緒に撮った写真を送って欲しいとお願いしたら、すぐにバンダナを巻いて作った素敵な額に入れて2枚も頂き、とっても、とっても感激しました。

パホア高校では、既に下校時間になってしまい授業を見たり参加したりすることは出来ませんでした。お話だけ聞く事ができました。少し残念だったことは、自分に英語力があればもう少し打ち解けて自由に話が出来たのに通訳の方がそばに居るときだけしか話が出来なかったことです。

最後の訪問先プナカマリ作業所では、将がシュレッダー作業を楽しそうに体験してましたが、その後のレイ作りではかなり飽きてしまいました。でも所長さんに何度も英語で励まされながら、言葉は解らなくても気持ちは通じた?らしく最後まで頑張っていた姿に感心しました。
将は、添乗員の桜井さんが気に入ったらしく、何処へでもついて歩いて楽しく過ごせたようです。彼とずっと自由に遊びたかったようです。

今回、私が一番困った事は、自炊しなければならなかったことです。
しかも40分で初めて行ったスーパーで5食分も買わなければならないなどと無理があり、結局、見慣れたカップラーメンやシリアルとチョコレートなどの食事となりました。参加者全員でのバーベQパーティーやレストランでの会食などもやりたかったです。参加者同士のコミュニケーションの時間や機会が少なかったのが残念でした。

また、重度のお子さんをお持ちの方は全ての時間を親が見ていなければならず、全く余裕がありませんでした。少しの時間だけでも預けられれば良かったように感じました。

今回とても印象に残ったことは、どこへ訪問しても現地の皆さんが快く温かく迎えてくださったことです。とても嬉しく思いました。多くのハワイの方たちと交流を楽しむことが出来て、またこんなすばらしい機会を下された知的障害者国際交流機構の皆様には大変感謝しています。どうもありがとうございました。

国際交流プログラムに参加して

金沢大学大学院教育学研究科障害児教育専攻

高嶋紗帆

今回、国際交流プログラムに参加させていただいたことを通して、本当に多くのことを勉強できました。まず、今回お子さん達と一緒に過ごすことを通して、家庭の中でのお子さん達の様子を見ることができました。普段、障害があるお子さんと接する時は学校が多いので、家庭での様子の一場面を見ることができ、色々と考えることができました。また、普段なかなか聞くことのできないお母さん方のお話を聞くことができ、勉強になりました。

また、ハワイの特殊学級を見学できたことも、とても良かったです。今まで海外の特殊教育の場を実際に見たことがなかったので、今回交流させていただいたことにより、日本との類似点や相違点を実感することができました。

ヒロ高校では、レベル別に二つの特殊学級があり、両方を見学させていただきました。主に、障害のレベルが軽いとされるお子さん達のクラスと交流させていただきました。ヒロ高校のお子さん達と日本から一緒に行ったお子さん達は一緒にクラフトをしていました。少し緊張した面持ちで活動に取り組んでいましたが、きっと、お子さん達にとっても貴重な体験になったのではないかと思います。また、障害のレベルが重いとされるお子さん達のクラスの様子は、コミュニケーションブックを使用するお子さんがいたり、一日の予定の確認に重きを置いていたり、普段私が日本の養護学校で目にする授業の様子と似ている部分が多く、場所が違えども特殊教育の内容というのは共通する部分が多いということを実感しました。お子さん達も先生方もとても親しみを持って接してくださり、楽しい時間を過ごすことができました。

パホア高校の特殊学級には、知的障害と肢体不自由の重複と思われるお子さんたちも在籍しているようでしたが、一人一人の状態に合わせ、その子ができる範囲で就労に繋がるプログラムを組んでいるというところに魅力を感じました。また、日本では養護学校の高等部を卒業したあとのサポートはまだまだ整っていないので、卒業してしまったら学校に通うことはできない場合がほとんどですが、パホア高校では、卒業後もサポートがなされるようで、就労先が決まらないという場合は卒業後も学校に来られるとのことに関心しました。さらに、子どもたちが下校したあとも、自宅に支援者が赴くというシステムがあるようでした。日本では、障害があるお子さん達が放課後を有意義に使えるようなシステムが広く普及していないのが現状だと思います。是非日本でも広く取り入れて欲しいと感じました。

両校とも、担当の先生方が熱心に説明してくださりましたが、私の英語力不足により、日本の現状や私の意見を十分にお伝えすることができず、残念です。

初めて行く国を、初めて会う人たちと旅するということが不安もありましたが、お子さん達もお母さん方もとても仲良くしてくださったので、楽しく有意義な旅になりました。今回の交流で感じたことや学んだことを、今後活かしていければと思います。



火山



アカカの滝



アロハタワー

ヒロ高校・パホア高校の訪問で感じたこと

金沢大学教育学部障害児教育教員養成課程

宗本知緑

ヒロ高校でも、パホア高校でもとても明るい雰囲気だと感じました。

生徒さん、職員さん共にニコニコして元気いっぱいでおられてとても素敵だなあ、と感じました。ヒロ高校で一番初めにを見せていただいた教室は比較的障害の軽いお子さん方の教室で、その時は私達のように普段とは異なった活動をしておられました。間に通訳の学生さんを挟みながら日米のお子さん共に活動しているのはほほえましかったです。次に見せていただいた、先ほどよりも重度の教室では、普段どおりの活動をしておられました。そこでは、予定を紙に書いて終わったら順番にしまっていく、ということや、はじめに今日の予定を確認する、など日本の養護学校と共通する部分が多く面白かったです。また、どちらの高校でも普段から、洗濯やカフェで働く、農作物を育てる等の将来に結びつく実習形式の授業を行っているということで、とてもよいものだと感じました。ヒロ高校で就職率100%と聞いた時はとても驚きましたが、これらの効果が出ているのだろうか、と思いました。

ヒロ高校では、授業に先生以外のアシスタントの方がいらっしゃって、1対1や1対2で子供達に対応できるのはとてもよいなあ、と感じました。ただ、その方たちは現場に入ってから初めて障害児教育に関して専門的な研修を受けるのだと聞きました。研修を受けてみて初めてイメージと違うと感じたり、職についてから専門性の不足によって起こる困難等はないのか、などそのシステムの利点と欠点についてとても興味がわきました。

一概には言えないのですが、日本よりもアメリカの方が特殊教育に関して金銭的に支援額が大きいのでは、と感じました。

パホア高校では、たくさんの写真を見せていただきました。学校外での活動が写っていました。ハワイの広大な土地を上手に使った活動で子供達がいきいきして見えました。どちらの高校とも就職に関する話や作業所の話などが多々でてきており、子供達の将来のためにとっても力を入れていると感じました。

アークにて ↓



「PTA 国際交流プログラム」報告

クラブツーリズム(株)添乗員

桜井 正彦

2006年3月30日(木)参加親子3組(チャレンジッド3名、母親3名)と特殊教育を学ぶ大学院生2名、そして教育職である団長先生の計9名と添乗員・桜井正彦はJO076便にて成田空港を飛び立ちました。時差の関係で同日の午前8時10分ホノルル空港到着後、入国審査・税関審査もスムーズに進みタクシー2台に分乗、ハワイ州政府へと向かいました。途中アロハタワーに寄り時間調整を兼ねてハワイらしさを味わってもらうことにしました。この間、添乗員としての業務として、参加者皆様の荷物を国内線カウンターに預けておきました。

午前11時の約束に合わせ20分前にハワイ州政府に到着、トイレ休憩と記念の団体写真を撮りました。



11時きっかりに senator Jerry chang に挨拶の上、感謝状を各自頂いただき、一緒に記念写真を撮っていただきました。

その後ガイドツアーをして戴き、通常入れない部署にもご案内してもらい一同感激しました。ただ、時差の関係で特にチャレンジッドの皆様は眠そうでした。

約1時間の訪問の後空港へ向けてタクシーで出発、到着後はハワイ島ヒロへ向かう航空機の出発まで自由行動とし、各自昼食を取りました。チェックイン、手荷物検査等全て順調に進み午後3時45分ハワイアン航空機にてヒロへと向かいました。ヒロ到着後宿舎に向かう途中 KTA supermarket にて買い物の仕方をご案内し、各自買い物を楽しんで頂きました。初めての経験で戸惑った方もいらっしゃいました。宿舎は二つに分かれましたが先に午後7時30分に ANGEL HOUSE に到着、そして午後8時20分には VACATION RENTAL HOUSE に到着し旅装を解きました。

旅の二日目、3月31日(金)は午前9時20分より ARC in HILO を訪問しました。会議室にてまず団長先生を皆様に紹介した後、参加者をご紹介し各自に ARC で用意していただいた名札をつけてもらいました。会議室では ARC についての説明をしていただき質疑応答となりました。主なものは下記のとおりです。

- | | | |
|-------------------|----|---|
| ①施設の開始時間と終了時間について | 応答 | 8:00~14:30 |
| ②放課後の活動について | 応答 | クラスが終わるとほとんどの生徒は帰宅、一部の生徒は引き続き生徒2名に対し先生1名の体制で勉強。 |
| ③就職活動や進路について | 応答 | 障害の度合いによっては違いがあり、厳しい環境ではあるものの一部の生徒は職を身に付け就職。 |
| ④手に職をつける授業内容について | 応答 | ランドリーや栽培のスキル取得 |

以上の質疑応答の後、交流プログラムへと進んでいきました。プログラムの内容は下記のとおりです。

- ①本場のフラダンスを披露していただきその後は参加して一緒に踊りました。
- ②ハワイらしいブーケの作り方を教わりながらいっしょに作業。
- ③日本側からは日本伝統のおりがみを教えてあげました。
- ④ハワイアンの数の読み方を教えてもらい、日本側からは日本の数の数え方を教えました。
- ⑤ランチを共にした後、各々、庭で遊んだり話をして交流を図りました。

昼食後 ARC を出発し、ハワイ島の観光のメイン火山公園見学へとバスで向かいました。

KILAUEA NATIONAL PARK 到着、団体写真をとり、展示物を見ました。皆、自然の偉大さにびっくりしていました。



亀裂を車窓にて観光後 KTA supermaket に立ち寄り各食料品とう各自買い物を楽しみました。

夕刻 ANGEL HOUSE と VACATION RENTAL HOUSE 到着し二日目も無事終了しました。



三日目の4月1日(土)は昼過ぎの宿舎交換の他、特に決められたスケジュールも無くゆっくり過ごしました。少し疲れが出た頃だったため良い休養となりました。VACATION RENTAL HOUSE に宿泊した皆さんは暖かな海で海水浴を楽しみました。

四日目の4月2日(日)は終日、チャーターしたバスでヒロ周辺の観光を楽しみました。訪問先は下記のとおりです。

アカカの滝見学後フードコートにて各自昼食、午後は動物園、ヒロハッテイ、ショッピングモール、SAFEWAY(FOOD SUPERMARKET)等で観光や買い物を楽しんでいただきました。夕刻にはそれぞれの宿舎に到着。

五日目の4月3日(月)は密度の濃い一日となりました。最初はヒロ市庁舎への表敬友好訪問です。ヒロ市 CHAIRMAN 不在の為、秘書2名と同等の方にお出迎えをしていただきました。



ヒロ市から感謝状を参加者全員に頂戴し、更にチョコレートやボールペン、ハワイ島のバインダー等のプレゼントまでプレゼントして頂きました。参加者皆様大喜びでした。終了後、全員で記念写真を撮りました。

午前9時15分にヒロ市市庁舎を出発、二番目の訪問先ヒロ高校へと向かいました。

ヒロ高校到着チャレンジットはそれぞれネックレス作成の組、ブーケ作成の組、絵を描く組に入っただき、父兄、大学生、校長先生、添乗員は先生のご案内で授業見学後説明や質疑応答の時間を取っていただきました。大学並みのキャンパスが印象的なヒロ高校は2クラス分の収容を誇る特別クラスを有しています。教室に入ってみますとチーム毎に机がまとまっており班編成されていました。クラスは障害の度合いによって分けられていますが、重度の子供は不在しているとのことでした。先生は7~8名体制とのことでした。今回ツアーに参加された先生や学生はとても細かな分刻みの時間割に大きな興味を抱かれたようでした。また、お母さん方は父兄が来るまで生徒を見てくれる迎へのシステムに感心していました。

ヒロ高校にて軽食をともにとってから出発、次の訪問先パホア高校へと向かいました。途中 街中の滝を見学がてら、トイレ休憩を済ませました。パホア高校到着。チャレンジットはビーズを使ったクラスに参加させていただきました。ここは障害別のクラス分けは無く軽度の子から重度の子も一緒でした。

父兄、校長先生はパホアの先生から概要の説明を受け質疑応答をさせていただきました。ヒロ高校と比較すると、いかにも普通の高校という感じのパホア高校は1クラス分の特別クラスを有しています。教室にはトイレ・洗面所、ベット(1台)が設置されており保健室を思わせる雰囲気でした。机もスクール形式ではなく長テーブルとパイプ椅子といった具合で、ヒロ高校に比較して重度の生徒が多くストレッチャー式の車いすを利用している生徒もいました。先生は3名体制。ツアーに参加された皆様は子供達との障害度合いが違いすぎて感心が持てなかったように思います。送迎に関しましては、場合によっては先生が生徒を自宅までお送りするシステムを取っていました。特にお母様方の関心の高い質疑応答は下記のとおりでした。

- | | | |
|--------------|----|----------------------------|
| ①就職率について | 応答 | パホア高校ではとても就職率が低い |
| ②放課後は | 応答 | 父兄が迎えが基本だが先生がそのまま面倒を見ることも |
| ③障害者家庭の出費 | 応答 | 説明では日本よりアメリカが優遇されていると感じました |
| ④障害者雇用の日米の差は | 応答 | アメリカ企業の方が進んでいる |

パホア高校出発後 4 番目の訪問先 PUNAKAMALI 作業所へと向かいました。ここは障害を持った子の就職先の一つです。到着後作業所を見学し、実際に作業をさせて戴きました。内容はシュレッダー作業や畑に出たの、栽培植物の茎を刈ったり植えたりの実作業でした。また、作業所に通う障害を持つ子供に先生になってもらい参加父兄も交え、ハワイ特有のレイを作り皆で楽しみました。また、夕食前には輪になって皆でお祈りもしました。その後全員で夕食を取りおいしく戴きました。



交流の会話の中では PUNAKAMALI の雇用について（給料面、労働時間、通勤の仕方）や 仕事の指導について（同じ障害者の中からリーダーをつくる）など参加した皆様の関心がある事柄が質疑応答されました。

午後 6 時に楽しかった思いをあとに PUNAKAMALI 作業所を出発し宿舎到着後明日早朝のハワイ島ヒロ出発に備えました。

六日目 4 月 4 日（火）は午前 4 時過ぎの宿舎出発で眠い目をこすりながら空港へ向かい、ホノルル経由 4 月 5 日（水）無事成田へ戻りました。

以上



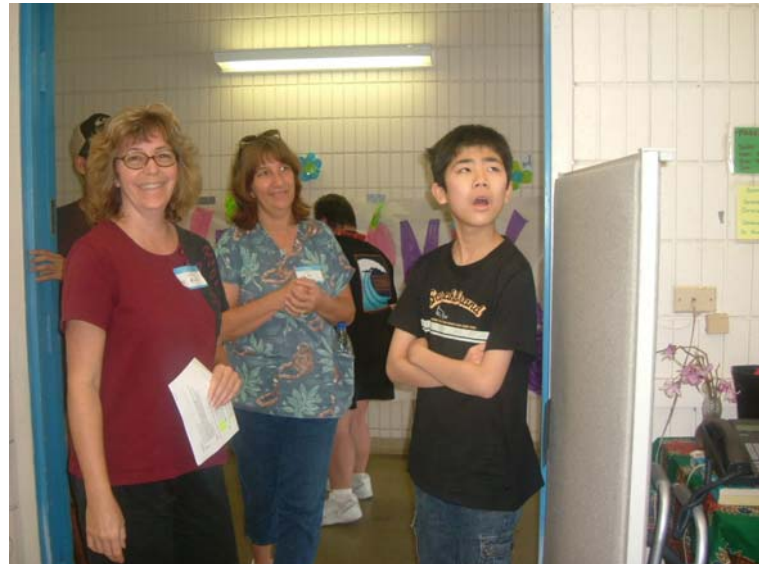
米国下院議会文化・観光委員長より訪問記念証を授与される



ハワイ州庁舎にて



ARC in Hilo リンターマネージャーと



ARC in Hilo ジョブコーチと



ARC in Hilo ハワイ語と日本語の数の学習



ARC in Hilo ARCの仲間と一緒にフラダンスを



キラウエア火山国立公園クレーターの前で



エンジェルハウスガレージ前で



エンジェルハウスにて(リラックス)



カポホ別荘内のシャンペンコーブにて



アカカフオールズにて





ヒロ市会議場にて



ヒロ市から訪問記念証を授与される



ヒロ高等学校特殊学級での合同授業(上)

パホア高等学校特殊学級での合同授業(下)





パホア高等学校特殊学級での実習



パホア高等学校特殊学級のお友達と



プナカマリ作業所正面にて



プナカマリ作業所の仲間の紹介



プナカマリ作業所での作業実習



プナカマリ作業所でのレイ作り